

2009年度
第3四半期決算
Conference Call

2010年2月9日
日本新薬株式会社



業績の状況（連結）

(百万円)

	2008年度		2009年度			
	第3四半期実績		第3四半期実績		対前年同期比	
		売上比		売上比	増減	増減率
売上高	48,661	100.0%	48,491	100.0%	△ 170	△0.3%
営業利益	7,052	14.5%	6,885	14.2%	△ 167	△2.4%
経常利益	7,058	14.5%	7,193	14.8%	135	1.9%
当期純利益	3,861	7.9%	4,321	8.9%	460	11.9%

※以下、本資料における第3四半期は4～12月の累計



医薬品売上の内訳

(百万円)

	2008年度		2009年度			
	第3四半期実績		第3四半期実績		対前年同期比	
		売上比		売上比	増減	増減率
医薬品	34,502	89.5%	37,271	92.8%	2,769	8.0%
工業所有権等収益	3,028	7.9%	1,984	4.9%	△ 1,044	△ 34.5%
フルリフロキサシン原薬	568	1.5%	734	1.8%	166	29.2%
受託製造	444	1.2%	179	0.4%	△ 265	△ 59.6%
医薬品合計	38,542	100.0%	40,168	100.0%	1,626	4.2%

- ・エビプロスタット(12. 8% up)
(前立腺肥大症治療剤)
- ・ガスロンN(9. 9% up)
(粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤)
- ・アズノールうがい液(17. 5% up)
(アズレン含嗽液)

等の伸長

- ・シアリス、ルナベル
等の寄与
- ・エストラサイト(6. 5% down)
(前立腺癌治療剤)
- ・セレクトール(4. 2% down)
(血管拡張性 β_1 遮断薬)

等の減少

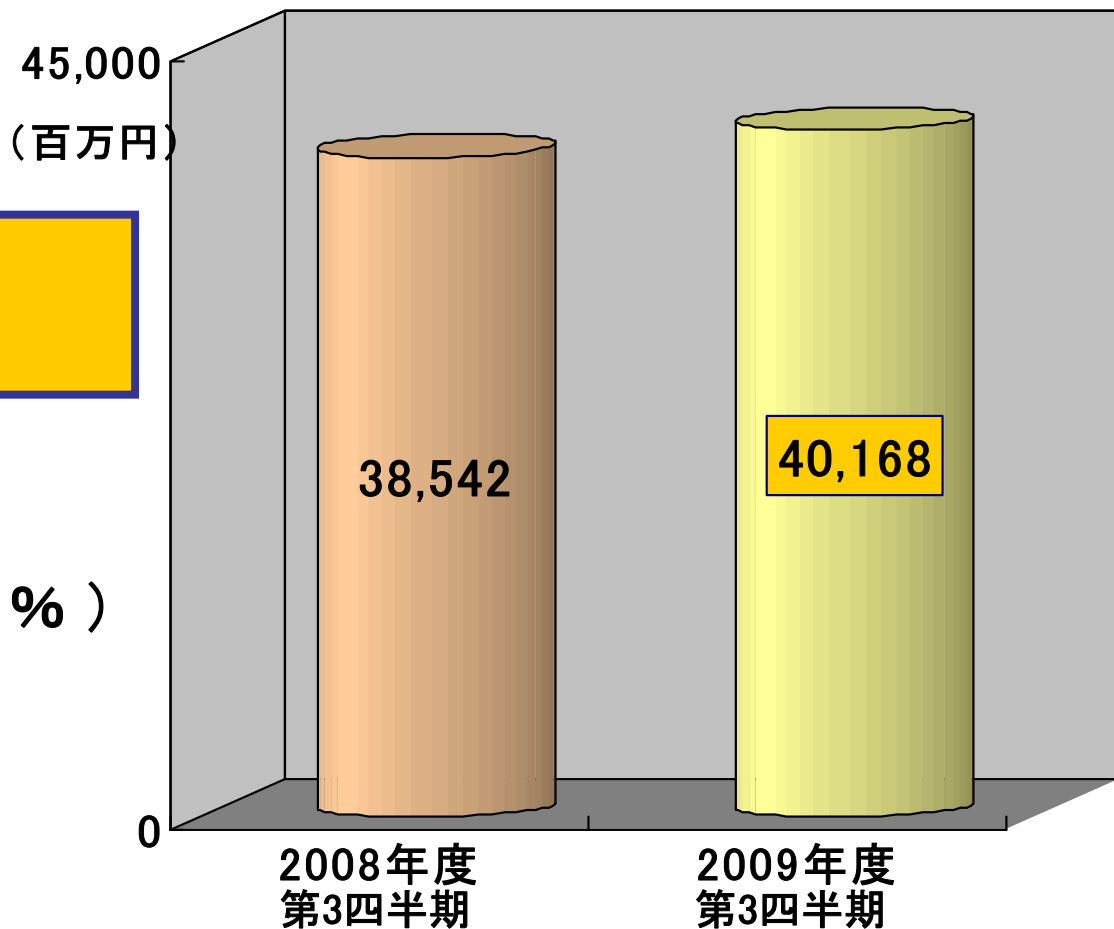


部門別業績推移 医薬品

実績 40,168百万円

対前年同期比

+ 1,626百万円(+ 4.2%)





機能食品売上の内訳

(百万円)

	2008年度		2009年度			
	第3四半期実績		第3四半期実績		対前年同期比	
		売上比		売上比	増減	増減率
健康食品素材	352	3.5%	352	4.2%	0	0.0%
品質安定保存剤	1,177	11.6%	1,106	13.3%	△ 71	△6.0%
たん白製剤	5,730	56.6%	4,429	53.2%	△ 1,301	△22.7%
ニュートリション素材	1,618	16.0%	1,250	15.0%	△ 368	△22.7%
その他	1,241	12.3%	1,186	14.2%	△ 55	△4.4%
機能食品合計	10,118	100.0%	8,323	100.0%	△ 1,795	△17.7%

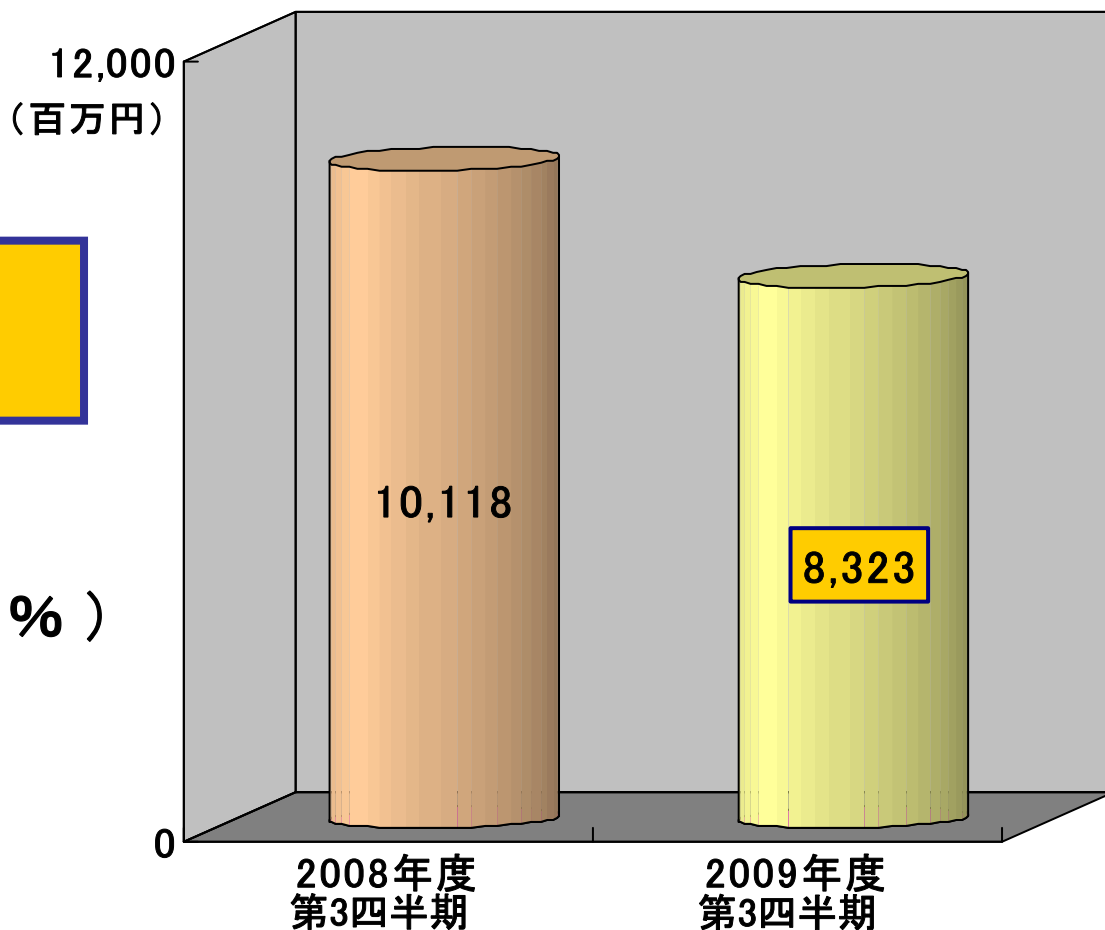


部門別業績推移 機能食品

実績 8,323百万円

対前年同期比

△ 1,795百万円 (△ 17.7%)



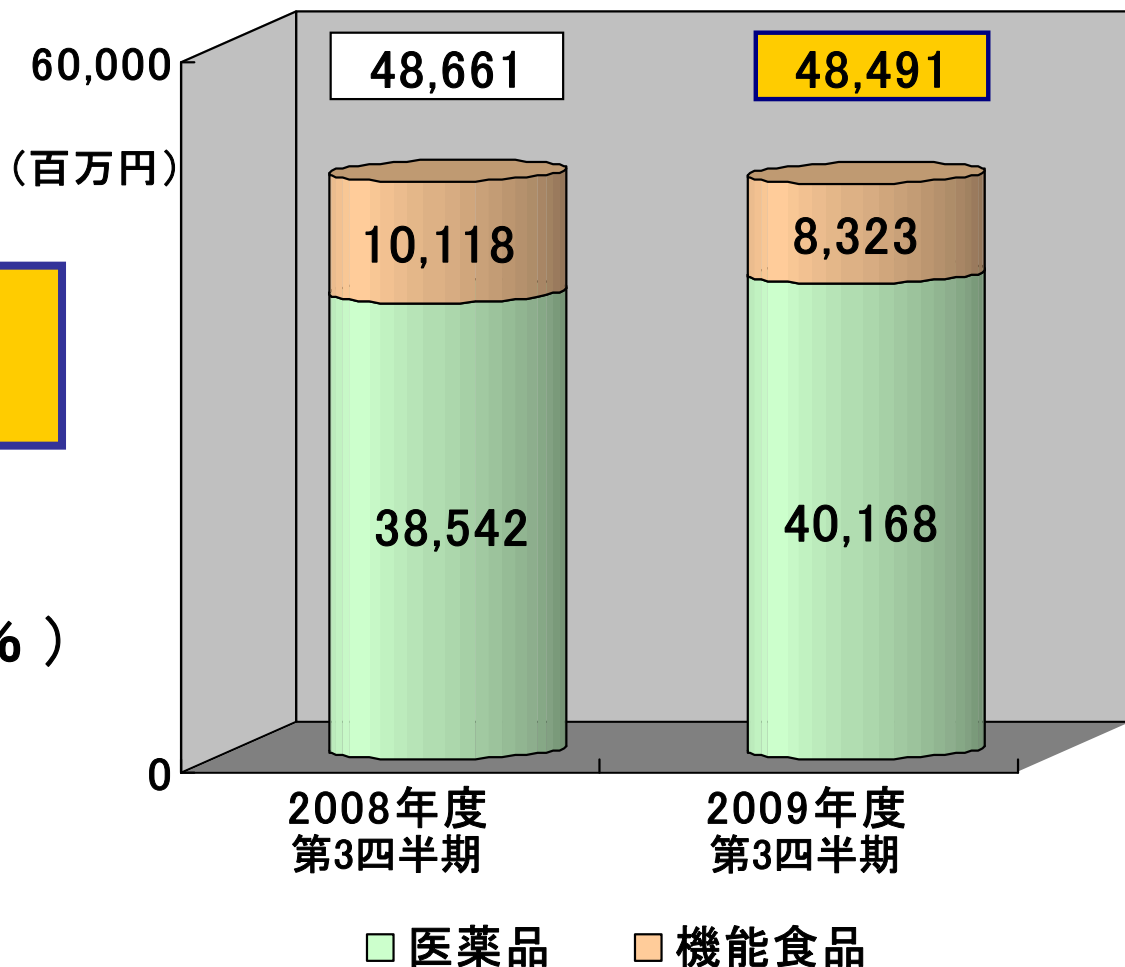


業績推移(連結)売上高

実績 48,491百万円

対前年同期比

△170百万円(△0.3%)





損益計算書 (連結) ①

(百万円)

	2008年度		2009年度			
	第3四半期実績		第3四半期実績		対前年同期比	
		売上比		売上比	増減	増減率
営業収益						
売上高	48,661	100.0%	48,491	100.0%	△ 170	△0.3%
(医薬品)	(38,542)	(79.2%)	(40,168)	(82.8%)	(1,626)	(4.2%)
(機能食品)	(10,118)	(20.8%)	(8,323)	(17.2%)	(△ 1,795)	(△17.7%)
営業費用	41,608	85.5%	41,606	85.8%	△ 2	△0.0%
売上原価	21,704	44.6%	21,404	44.1%	△ 300	
返品調整引当金	繰入 24	0.0%	戻入 17	0.0%	△ 41	
販売費及び一般管理費	13,912	28.6%	14,246	29.4%	334	
研究開発費	5,967	12.3%	5,972	12.3%	5	
営業利益	7,052	14.5%	6,885	14.2%	△ 167	△2.4%



損益計算書（連結）②

(百万円)

	2008年度		2009年度			
	第3四半期実績		第3四半期実績		対前年同期比	
		売上比		売上比	増減	増減率
営業利益	7,052	14.5%	6,885	14.2%	△ 167	△2.4%
営業外収益	842	1.7%	701	1.4%	△ 141	△16.8%
営業外費用	837	1.7%	393	0.8%	△ 444	△53.1%
経常利益	7,058	14.5%	7,193	14.8%	135	1.9%
特別利益	-	-	206	0.4%	206	-
特別損失	339	0.7%	-	-	△ 339	-
当期純利益	3,861	7.9%	4,321	8.9%	460	11.9%

経常利益 : 為替差損の減少等により増益

当期純利益 : 特別損益の影響も加わり増益



財政状況（連結）

(百万円)

	2008年度	2009年度			2008年度	2009年度	
	期末実績	第3四半期 末実績	増減		期末実績	第3四半期 末実績	増減
資産の部	98,286	103,110	4,824	負債の部	21,942	22,863	921
（流動資産）	57,578	59,103	1,525	（流動負債）	13,522	14,104	582
（固定資産）	40,708	44,006	3,298	（固定負債）	8,420	8,759	339
				純資産の部	76,344	80,246	3,902
合計	98,286	103,110	4,824	合計	98,286	103,110	4,824

(増加)

資産の部 : 受取手形及び売掛金、長期前払費用

負債の部 : 未払金、支払手形及び買掛金

純資産の部 : 株主資本、評価・換算差額等

(減少)

現金及び預金

賞与引当金



キャッシュ・フローの状況（連結）

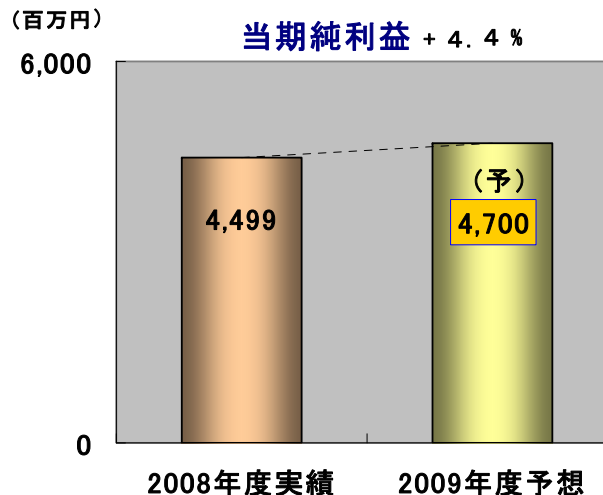
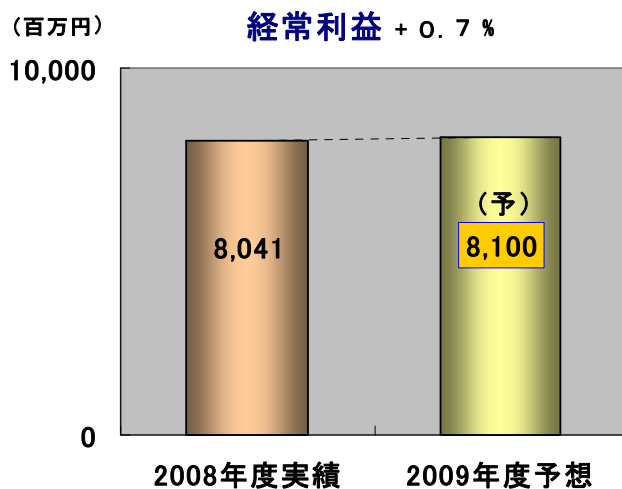
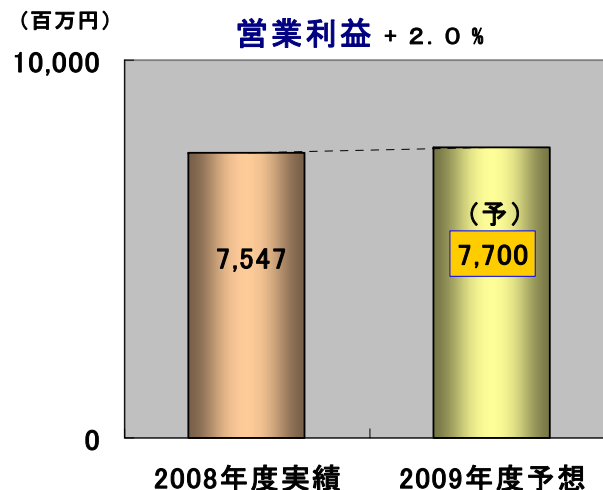
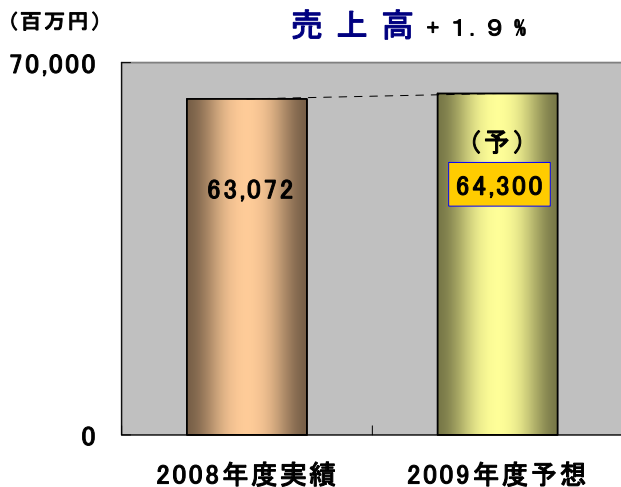
(百万円)

	2008年度	2009年度	2008年度
	第3四半期 実績	第3四半期 実績	実績
営業活動による キャッシュ・フロー	2,632	2,829	6,370
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,921	△ 3,749	△ 3,565
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,078	△ 1,236	△ 2,300
現金及び同等物の 期末残高	12,267	13,149	15,446

現金及び同等物の期末残高：長期前払費用の取得による支出の増加等により減少



通期業績予想 (連結)



研究開発品目の進捗状況



新製品開発状況(国内)

開発品目	申請区分	適応症等		開発段階	2007	2008	2009	2010年度
NS-315 (トラマドール塩酸塩) (導入)	新投与経路	非麻薬性 鎮痛剤	がん性疼痛	申請中	→	申請		●承認予定
	新効能		慢性 非がん性疼痛	P II			P II →	
NS-17 (アザシチジン) (導入)	新成分	骨髄異形成症候群		申請中	→	P II →	申請	承認予定 ●
NS-11 (アカンプロセート) (導入)	新成分	アルコール依存症		P III	→	P III	→	→
LY450190 (タダラフィル) (導入)	新効能	前立腺肥大症 に伴う排尿障害		P III		P III	日本イーライリリー →	→
NS-304 (自社)	新成分	肺高血圧症		P II 準備中	→		P II 予定	→
NST-141 (自社)	新成分	アトピー性皮膚炎 に伴うそう痒		P I			P I	→



新製品開発状況(海外)

開発品目	申請区分	適応症等	開発段階	2007	2008	2009	2010年度
NM441 (プルフロキサシ) (自社)	新成分	合成抗菌剤	韓国 発売 準備中	柳韓洋行社 ● 承認			
			US 申請 準備中	Optimer社 →		申請予定	
			中国 PⅢ 準備中		Lee's Pharma社		→
NS-304 (自社)	新成分	肺高血圧症	PⅢ	PⅡ	Actelion社 →	PⅢ	→
NS-187 (バフェチニブ) (自社)	新成分	慢性骨髄性 白血病	US/EU PⅡ 準備中	CytRx社 → PⅠ			



NS-315 (トラマドール塩酸塩)

— 非麻薬性鎮痛剤 —

開発段階 : がん性疼痛 : 2008/07申請
慢性非がん性疼痛 : PⅡ試験

開発形態 : グリュンター社(ドイツ)から導入
(世界の約100カ国で発売済み)

用法 : 4回/日

特徴 : 弱オピオイド

NSAIDs < トラマドール < モルヒネ



NS-17 (アザシチジン)

— 骨髄異形成症候群治療剤 —

開発段階：2009/12申請

開発形態：セルジーン社(米国)より導入

米国 2004/07 発売

欧州 2009/01 発売

適応症：骨髄異形成症候群(MDS)

成分：アザシチジン

剤型：凍結乾燥粉末/バイアル

(用時溶解、皮下・静脈内注射)

特徴：

- ・ DNA脱メチル化作用による正常な細胞分化誘導
- ・ MDS治療の第一選択薬(米国)



NS-304

— 肺高血圧症治療剤 —

開発段階： 欧州 (EMEA) オーフアン指定：2005/08

PⅢ試験 (海外)

PⅡ試験 (国内) 準備中

開発形態： 2008/04 アクテリオン社 (スイス) へ
導出 (日本を除く全世界)

国内はアクテリオンジャパンと
共同開発・販売

適 応 症： 肺高血圧症

作用機序： 非プロスタノイド選択的PGI₂アゴニスト

剤 型： 錠剤

特 徴： 長時間作用型経口剤



NST-141

— 抗そう痒剤 —

開発段階: P I 試験

開発形態: 2008/10大鵬薬品工業と基本契約締結
共同開発・共同販売

適 応 症: アトピー性皮膚炎に伴うそう痒

剤 型: 軟膏剤

特 徴:

- ・抗ヒスタミン作用ではない新規作用機序
- ・既存の薬剤が奏効しない難治性のそう痒に対しても効果を示す可能性

将来見通しに関する注意事項

- ▶ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらの文書は、現在における見込み、予測、リスクを伴う想定、実質的にこれらの文書とは異なる現実的な結論、結果を招きえる不確実性に基づくものです。
- ▶ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、貨幣為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制機関による承認取得、国内外の社会保障制度関連改革、マネージドケア、健康管理コスト抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- ▶ また、承認済み製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす製造能力を欠く状況、原材料の入手困難、市場の需要が得られない場合などが含まれますが、これに限定されるものではありません。
- ▶ 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。